

2019年11月7日

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院消化器外科において、大腸癌で手術歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学外科学第2講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

大腸癌における TIGIT と CD155 での発現 —後ろ向き観察研究—

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学外科学第2講座 講師 松田健司

3. 研究の目的

近年、がん治療を目的とした多くの免疫チェックポイントが研究されており、抗腫瘍性免疫応答を抑制することが示されています。免疫受容体 TIGIT は、リガンドとして、CD155 が知られており、癌に対して抑制的な免疫チェックポイントとして作用します。TIGIT/CD155 ネットワークもまた、他のチェックポイント制御因子と相互作用します。今回、大腸癌において、両者がどのように発現しているかを解明し、診断・治療・予後予測に役立つ可能性を見出します。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

大腸癌の患者さんで、平成25年1月から平成25年12月までの期間中に、大腸癌の切除手術を受けた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、病歴、採血データ、病理所見に関する情報です。

(3) 方法

当科にて大腸癌切除手術を受けた方の切除標本を用いて TIGIT と CD155 の発現の有無を調べ、無再発生存率、全生存率の関連を検討します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学外科学第2講座 担当医師 村上大輔

TEL : 073-441-0613 FAX : 073-446-6566

E-mail : daichan@wakayama-med.ac.jp